

1 趣旨

体験活動を通して、青少年が英語でコミュニケーションをとる楽しみを体感し、もっと英語を学びたいという意欲を持つことを目的に実施する。

2 期日

令和5年10月28日（土）～29日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

36名（小学生36名）

5 主な活動内容

（1）イングリッシュオリエンテーリング

参加者は、館内に設置された20問の問題を探しながら、講師や友達と協力し合って解く姿が見られた。参加者からは「班の人と協力しながら考えたり、わからない問題はわかる人にヒントをもらったりしてよかった」「問題が英語で書かれていたけれど、先生や友達が教えてくれたので楽しくできた」等の参加者の声が聞かれた。



（2）キャンプファイヤー

参加者は、英語の歌を歌ったり、歌に合わせて踊ったり、体全体をつかって英語を楽しむことができた。また、たき火を囲んでスモア作りを行い、外国の文化に触れたり、興味をもったりすることができた。参加者からは「みんなで踊るのが楽しかった」「みんなで踊ったり歌ったりマシュマロを焼いて食べたりして、話が進んで楽しかった」等の参加者の声が聞かれた。



（3）ボッチャ（ニュースポーツ）

SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」に迫るため、全ての人が一緒に楽しめるスポーツとしてボッチャを実施した。「Blue ball」「Red ball」「Good job」など自然と英語を用いながら、楽しそうに取り組む様子が見られた。参加者からは「体の不自由な人も遊べるからいいと思った」「プレイ中にみんなで協力できてうれしかった」等の参加者の声が聞かれた。



6 事業の成果と課題

（1）成果

- 「明るく優しく丁寧に教えてもらえて安心して活動できた」「わからない英語があつたらすぐに教えてくれてとてもうれしかった」といったアンケートの感想から、講師を班に固定することで、一層交流が深まり、安心して活動できる環境づくりにつながったことが分かった。
- 「英語を楽しく学べた」「前は英語かきらいだったけど、好きになった」といったアンケートの感想から、活動を通して英語に触れることでもっと学びたいという意欲の高まりが見られた。

（2）課題

- 実施後の講師とのふり返りで、講師を担当の班に固定することでの利点も多くあったが、もっと多くの参加者とも交流を深めたいという意見があった。活動の内容等を工夫するなどして、改善をしていきたい。